

**小郡市立学校給食センター
整備運営事業**

審査講評

令和6年6月11日

小郡市立学校給食センター整備運営事業者検討委員会

小郡市立学校給食センター整備運営事業者検討委員会は、小郡市立学校給食センター整備運営事業に関して、審査基準書（令和5年10月27日公表、令和5年12月20日修正公表）に基づき、提案内容等の審査を行ったので、審査結果及び審査講評を報告する。

令和6年6月11日

小郡市立学校給食センター整備運営事業者検討委員会
委員長 伊庭 良知

目 次

第 1 審査の概要.....	1
1 優先交渉権者の選定方法.....	1
2 審査の進め方.....	1
3 検討委員会の経緯.....	2
第 2 審査結果.....	2
1 資格審査.....	2
2 提案審査.....	3
1) 基礎審査.....	3
2) 総合審査.....	3
3 審査講評.....	4
1) 各審査項目の講評.....	4
2) 総評.....	8
3) 事業実施にあたっての要望.....	9

第1 審査の概要

1 優先交渉権者の選定方法

小郡市立学校給食センター整備運営事業（以下「本事業」という。）の実施において、設計、建設、維持管理及び運営に関する専門的な知識やノウハウが求められることから、優先交渉権者の決定にあたっては、提案価格のほか、設計、建設、維持管理及び運営等の提案内容、事業計画の妥当性・確実性等の観点から総合的に評価を行う公募型プロポーザル方式を採用した。

2 審査の進め方

審査は、以下の手順で実施した。

- ア) 資格審査：第一次審査として応募資格の有無を確認した。
- イ) 提案審査：第二次審査として応募者からの提案内容を審査した。審査は「基礎審査」と「総合審査」から構成され、「基礎審査」では、提案価格及び提案内容が募集要項等に示す条件を満たしているか否かを確認した。「総合審査」では、提案価格及び提案内容を様々な視点から総合的に評価した。

資格審査及び基礎審査は事務局が行い、総合審査は、小郡市立学校給食センター整備運営事業者検討委員会（以下「検討委員会」という。）が実施した。検討委員会は、学識経験者などで構成され、審査基準書の基準に基づいて提案価格及び提案内容の審査を行うほか、事務局が提案価格の評価を行い、それぞれの評価点の合計により優先交渉権者を選定した。小郡市は、総合審査による審査結果を踏まえ、優先交渉権者を決定した。

委員は、以下のとおりである。

[敬称略]

役 職	氏名	所属等
委員長	伊庭 良知	一般財団法人 国土政策研究会 理事
副委員長	片桐 義範	公立大学法人 福岡女子大学 国際文理学部 食・健康学科 教授
委 員	鮎川 透	公益社団法人 福岡県建築士会 会長
委 員	野中 文明	小郡市立大原中学校 学校長*
委 員	見城 俊昭	副市長

※令和6年4月1日付人事異動に伴い、小郡市立宝城中学校 学校長から異動となった。

事務局は、小郡市教育部教育総務課である。

3 検討委員会の経緯

	日程	主な議題
第1回	令和5年5月30日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要 ・実施方針(案)について ・審査基準に対する意見交換
第2回	令和5年9月25日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・審査基準(案)について ・ヒアリングの進め方について
第3回	令和6年3月27日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・応募状況と資格審査結果について ・提案内容の意見交換 ・ヒアリングの進め方について
第4回	令和6年4月25日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・提案審査(プレゼンテーション・ヒアリング) ・優先交渉権者の選定

第2 審査結果

1 資格審査

令和5年12月15日(金)までの間に、3つのグループから参加表明書・参加資格確認申請書類の提出があった。これらの応募者の参加資格の審査を実施したところ、いずれのグループも当該参加資格を満たすことが確認できたことから、令和6年1月12日(金)に書面にてその結果を通知するとともに、応募者にはそれぞれ提案受付番号を設定し、企業名を伏せてその後の審査を行った。

応募者の呼称については、それぞれ「512グループ」、「562グループ」、「582グループ」とすることとした。

表 応募者

512グループ	代表企業 構成企業	ハーベストネクスト株式会社 九州建設株式会社、徳倉建設株式会社、総合システム管理株式会社、株式会社中西製作所
562グループ	代表企業 構成企業	日本国民食株式会社 上村建設株式会社、東建工業株式会社、株式会社井上工務店、日本調理機株式会社、九州ビルサービス株式会社、平和総合サービス株式会社、有限会社小郡運送
582グループ	代表企業 構成企業	学校法人中村学園 中村学園事業部 株式会社メイ建築研究所、株式会社西中洲樋口建設、株式会社旭工務店、株式会社合人社計画研究所、株式会社サン・ライフ、株式会社アイホー九州支店、久留米運送株式会社

2 提案審査

1) 基礎審査

(1) 提案価格の確認

事務局にて、3グループそれぞれの提案価格が、すべて提案上限額の範囲内であることを確認した。

(2) 提案書類の確認

事務局にて、3グループそれぞれの提案書類が、すべて審査基準書に示す提案書類の確認内容を満たしていることを確認した。

2) 総合審査

総合審査は、審査基準書に基づき、提案価格の評価の得点が30点、提案内容の評価の得点が70点の合計100点満点で評価した。

(1) 提案価格の評価

提案価格については、以下の方法で評価し得点化（小数点第3位以下を四捨五入）した。3グループそれぞれの得点は「表 提案価格の得点」のとおりである。

$$\text{提案価格 A の得点} = (\text{最低の提案価格} \div \text{提案価格 A}) \times 30$$

表 提案価格の得点

グループ	512 グループ	562 グループ	582 グループ
提案価格（税込み）	4,160,988,294 円	3,978,300,284 円	4,466,600,946 円
得点	28.68 点	30.00 点	26.72 点

(2) 提案内容の評価

提案内容は、検討委員会委員5名が「表 内容評価の採点基準」に基づき評価項目ごとにA～Dの4段階で評価し、得られた採点の平均点を得点とした。3グループそれぞれの得点は「表 内容評価の得点」のとおりである。

表 内容評価の採点基準

評価	評価内容	採点基準
A	提案内容が優れており、具体的かつ適切な提案がされている	配点×1.00
B	具体的かつ適切な提案がされている	配点×0.66
C	要求水準を超える適切な提案がされている	配点×0.33
D	要求水準通りの提案がされている	配点×0.00

表 提案内容評価の得点

	512 グループ	562 グループ	582 グループ
得点	43.34 点	40.71 点	32.60 点

(3) 審査結果

3 グループそれぞれの提案価格の得点と内容評価の得点との合計得点は「表 総合審査の合計得点」のとおりである。検討委員会は、最も得点の高かったハーベストネクスト株式会社を代表企業とする応募者（512 グループ）を優先交渉権者として選定した。

表 総合審査の合計得点

グループ	512 グループ	562 グループ	582 グループ
提案価格の得点	28.68 点	30.00 点	26.72 点
提案内容評価の得点	43.34 点	40.71 点	32.60 点
合計得点	72.02 点	70.71 点	59.32 点

3 審査講評

1) 各審査項目の講評

1 事業計画全般に関する事項

評価項目	講評
1 取組方針・事業実施体制	<ul style="list-style-type: none"> 512 グループは、既存施設を運営しながら改築するというプログラムを的確に捉え、工夫が見られるとともに、コンパクトな施設計画を提案していた。また、各社の役割が明確にされていて、出資金等資金面での役割も明確に示されていた。 562 グループは、きぼうの森との関係や地域に開放された歩行者動線の提案など、周辺環境に留意した提案であり、各メンバーの役割、指揮系統等が明確に示されていた。 582 グループは、メンバーの役割、指揮系統等が明確に示されていた。
2 資金調達計画・長期収支計画	<ul style="list-style-type: none"> 512 グループは、ファイナンシャルアドバイザーによる監視が行われ、計画はよくできている。また、DSCR*が少し大きめに感じられた。 562 グループは、ファイナンシャルアドバイザーによる監視が行われ、計画はよくできている。また、DSCR*のバランスがよく、適正な剰余金が確保されている。 582 グループは、帰責者負担を明確に提案し、SPC のリスク、債務負担が軽減されていて、SPC の安定感がある。しかし、DSCR*が小さめで、各年度の剰余金の余裕度が少なく感じられる。また、優先融資の額が不明確で、ローン全体像が読み取れなかった。

*DSCR とは、元利金返済カバー率ともいわれ、借入金や社債などの返済にどの程度余裕があるかを評価する指標のことです。

評価項目	講評
3 事業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> • 512 グループと 582 グループは、工期順守の方策が具体的かつ明確に示されていて、順守の工夫、努力が的確だった。 • 562 グループは、工期順守の工夫が、明確に提案されていなかった。
4 リスク管理 (事業スケジュール以外)	<ul style="list-style-type: none"> • 512 グループと 582 グループは、クラウドデータ管理等が活用され、発注者との情報共有が工夫されており、リスクの顕在化が発注者にもわかりやすかった。 • 562 グループは、クラウドデータの小郡市との共有の仕方の提案が具体的に示されていなかった。しかし、リスク分析が十分になされており、リスクに対応するための保険付保がしっかりとなされていた。
5 災害対応	<ul style="list-style-type: none"> • 512 グループは、様々な災害を想定した対応が幅広く提案されていた。 • 562 グループは、災害発生時の組織、指揮系統体制等が明確に提案されていない。 • 582 グループは、想定した災害に対する提案はよく考えられていたが、災害の想定が十分な広がりがない。
6 地域経済・地域社会への配慮や貢献	<ul style="list-style-type: none"> • 512 グループは、地域雇用の方策が具体的に示されていた。 • 562 グループは、学童や子ども活動への給食面での支援はよく提案されていた。また、地域雇用の目標値は示されているが、達成の具体的な方策の提案が見られない。 • 582 グループは、地域雇用の方策が一般的で、具体性に欠けていた。
7 環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> • 512 グループと 562 グループは、配送車の EV 車導入など環境負荷の低減について提案されていた。 • 582 グループは、具体的な提案に乏しく、評価が低かった。
8 雇用への配慮	<ul style="list-style-type: none"> • 512 グループは、各構成員が女性の雇用、障がい者雇用を推進しており、エビデンスが示されていたことから高く評価した。

2 施設整備業務に関する事項

評価項目	講評
1 業務実績	<ul style="list-style-type: none"> 512 グループは、業務実績に基づく、配置人数や体制が十分に確保されていたため、高く評価した。
2 配置計画	<ul style="list-style-type: none"> 512 グループと 562 グループは、屋外の車両動線は工夫されていたが、配送車の車庫の提案がなされていない。 582 グループは、車庫等の提案もあるが、室配置等が複雑になっているためか、延床面積が多少大きいように感じられた。
3 内部計画	<ul style="list-style-type: none"> 512 グループは、動線交差を防止し効率的な作業ができるゾーニング計画などについて調理室のレイアウトなど十分検討されており、アレルギー専用調理室の配置など安全性に配慮した計画が提案されていた。しかしアレルギー専用の調理室の入り口に専用の手洗い設備が配置されていない。 562 グループは、調理作業上の安全対策（二次汚染防止策）、異物混入の防止と温度管理の徹底など調理室のレイアウトなど十分検討されており、アレルギー専用調理室の配置など安全性に配慮した計画が提案されていた。 582 グループは、調理室のレイアウトについて、1階だけでなく2階のスペースも活用する提案となっており調理スペースなどの有効活用についても示されていた。アレルギー専用調理室の配置など安全性に配慮した計画が提案されていた。しかし、炊飯室を2階に配置した事に積極的な意味を見出せなかったため、評価が低かった。
4 調理設備・備品計画	<ul style="list-style-type: none"> 3 グループとも、小郡市が想定する献立内容・提供食数(2,000食)の調理、2時間以内で喫食できる調理設備の配置、衛生管理の徹底について十分検討された調理設備・調理備品の選定が提案されていた。 さらに 512 グループは、上記に加え、まな板や包丁はカラーコーティング仕様が提案されており工夫がみられた点や、調理機器についても分解洗浄などについて具体的な提案がなされていた点から評価した。
5 施設、設備のメンテナンス性	<ul style="list-style-type: none"> 512 グループは、メンテナンス性に考慮した優れた提案がなされていた。 562 グループは、メンテナンス性に考慮した提案がなされていたが、ほかに突出した提案がないため、普通の評価となった。 582 グループは、メンテナンス等に対する資金手当てに関する提案が見られなかった。
6 周辺の環境・景観への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 3 グループとも敷地の制約が多い中、周辺環境に考慮した優れた提案がなされていた。
7 施工計画、施工方法等	<ul style="list-style-type: none"> 512 グループは、細やかな点に触れた提案が見受けられたため、高く評価した。

3 維持管理業務に関する事項

評価項目	講評
1 業務実績、維持管理体制、維持管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 512 グループは、十分な業務実績を有しており、配置人数や体制、経験・資格等を有する人材の確保について優れた提案がなされていた。 ・ 562 グループは、調理設備機器の故障等による業務への支障を最小限にするための対策について、優れた提案がなされていた。 ・ 582 グループは、良好な施設水準を保つための建築物、建築設備及び附帯施設保守管理業務の内容（項目、頻度、内容等）について優れた提案がなされていた。
2 ライフサイクルコストに配慮した施設の長寿命化、修繕計画や引渡し方法等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 512 グループは、事業期間終了時の業務引き継ぎ方法や、事業期間後のサポート体制について優れた提案がなされていた。 ・ 562 グループは、具体的かつ適切な長期修繕計画の提案がなされていた。 ・ 582 グループは、予防保全、計画修繕に基づいた保守点検、維持管理修繕計画について優れた提案がなされていた。

4 運營業務・開業準備業務に関する事項

評価項目	講評
1 業務実績、運營業務、実施体制・品質の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 グループとも、現在まで多くの給食センター運営実績があり十分な業務実績を有している。運営スタッフについて、総括責任者、各責任者など実務経験を有している人材を配置していた。また、給食センタースタッフの具体的な採用計画や人員確保のための提案がされていた。さらに、512 グループと 562 グループは、上記に加え、スタッフ教育においても年間計画などが明確に示されていた。 ・ 3 グループとも、学校との連携や食育の推進などについて具体的に提案されていた。
2 食の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 グループとも、食中毒や異物混入の防止策及び事故後の対策について具体的に提案されていた。食物アレルギーに関する事故発生防止・事故発生時の対応について具体的に提案されていた。 ・ 512 グループは、食中毒・異物混入に対する未然防止の対応が十分に考慮されており、信用に足り得るものであった。また、食物アレルギー事故への対応も、事前研修による人材育成、マニュアルの徹底、確実な受け渡し方法の確立がなされていた。 ・ 562 グループは、食物アレルギー事故防止としてアレルゲンの混入を防ぐための方策が、アレルギー室のつくりを含め、具体的であった。また、事故発生後の対応について、具体的な方策が示されており、事故発生後の職員教育についても示されていた。
3 衛生管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 グループとも、衛生検査内容や検査の頻度等及び検査の結果不適と認められた際の対応等について具体的に提案されていた。また、給食センタースタッフの健康管理や衛生管理、教育・訓練について具体的に提案されていた。 ・ 512 グループは、学校給食衛生管理基準に基づく衛生点検に基づいた提案が示されていた。 ・ 562 グループは、HACP の検証についても提案がなされており、年 4 回の検証と検証結果を即時確認できる仕組みが示されていた。

評価項目	講評
4 配送・回収業務、学校配膳業務	<ul style="list-style-type: none"> 512 グループと 562 グループは、EV 車を導入した安定的な配送や回収体制について提案されていた。しかし、582 グループは、安定的な配送や回収体制について提案されているものの、配送車に関する提案の記載がなかった。 3 グループとも、各学校での配膳業務について衛生面や安全性及び各校の個別の事情も考慮し提案されていた。 アレルギー対応食について、512 グループは、配送員から受け取る際に個別容器のラベルと個別対応表との照合確認を実施し確認記録するなど工夫がみられた。一方、562 グループは、配膳員から教職員または生徒に手渡しし、受領確認表に生徒本人が確認サインを記入するなど工夫がみられた。また、配膳員も開業準備期間にアレルギー研修を受けるなどスタッフ教育についても具体的に提案されていた。 512 グループは、学校配膳業務について、配膳員を配置することで事前の消毒作業や、事後の清掃作業を円滑に、さらに衛生的に実施できるだけでなく、教員の負担軽減につながるため非常に有益であると考えた。
5 開業準備	<ul style="list-style-type: none"> 3 グループとも、開業時からの円滑な給食の提供開始に向けて具体的な計画が提案されていた。

5 解体業務に関する事項

評価項目	講評
1 周辺の環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 512 グループは、十分な安全対策及び工事に伴う近隣への影響を最小限に抑えるよう工夫がなされた提案であったため、高く評価した。
2 施工計画、施工方法等	<ul style="list-style-type: none"> 582 グループは、既存施設解体後の外構整備のスケジュールに不安が残るため、評価が低かった。

6 既存中学校の配膳室改修業務に関する事項

評価項目	講評
1 改修計画	<ul style="list-style-type: none"> 512 グループは、改修工事に対し、余裕をもった工期を確保していると考えられ、特に大原中学校と小郡中学校の2校は、改修箇所が多く大規模な工事となることから、先行して工事着手することで、天候不良等にあっても十分な工期が確保できているため、高く評価した。

2) 総評

本事業のプロポーザルに参加した3グループの提案は、本事業の目的を正しく理解し、本事業の確実かつ効果的な実現に向けた提案がなされていた。特に、維持管理業務における非常時における支援体制、敷設後に作業困難となる配管・高所の作業について、より短期間でメンテナンスや更新が可能となる提案は、どのグループも優れた提案で、小郡市が要求する水準を上回る内容だった。

最後に、今回、本事業のプロポーザルに参加した各グループの皆様へ、多大なる尽力に対して敬意を表するとともに、心から感謝を申し上げます。

3) 事業実施にあたっての要望

本事業をより良いものとするため、優先交渉権者に決定した 512 グループに対し、検討委員会として次の点について要望する。

- ・本事業をより良いものとするため、小郡市の学校給食の実態を適切に把握したうえで事業全体を通して小郡市と十分な協議の上、密に連携して対応すること。
- ・小郡市内の事業者活用や地元の資材活用といった地域経済への貢献について、積極的に行うこと。
- ・事業全体にわたり、近隣住民への十分な配慮を行うこと。
- ・給食センター建設工事期間中において、隣接する大原小学校の児童をはじめ、近隣住民への安全に十分配慮すること。
- ・配膳室の改修工事期間中において、生徒をはじめ、中学校を利用する者や近隣住民への安全に十分配慮すること。
- ・小郡市が実施するモニタリング等において、資料作成や情報提供など、積極的に協力すること。